

## 長岡市・関係団体共同記者発表要旨

日 時：令和2年12月22日（火）午後2時から

会 場：アオーレ長岡東棟4階 災害対策本部会議室

【発表項目：災害時避難施設に係る情報提供等に関する協定締結式 共同記者発表】

出席者：株式会社バカン 代表取締役 河野 剛進（オンライン）

長岡市長

磯田 達伸

（司会）

ただいまから、株式会社バカンと長岡市による災害時避難施設に係る情報提供等に関する協定締結式を行います。本日は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、東京の株式会社バカンと長岡市役所をオンラインで結ぶ形で行います。

はじめに、長岡市長からごあいさつと協定の概要を説明いたします。

（市長）

このたび、飲食店や公共施設等の空き情報を配信するサービスを提供しているベンチャー企業の株式会社バカンと長岡市が協定を締結し、県内で初めて、同社のサービスを利用した災害時の避難施設の位置情報や混雑情報等の提供を本日から開始します。先進技術を持つ企業と共同で問題解決と市民生活の向上を図るという「オープンイノベーション」の一環として、新しい発想を取り入れて災害時における避難場所での新型コロナウイルス感染拡大防止対策に取り組みます。

災害時に避難場所を開設する際、バカンが提供するプラットフォーム「VACAN（バカン）」を利用して、避難場所の開設情報や混雑情報を配信します。また、平常時においても避難場所の位置を確認することが可能です。

市民や市内滞在者、遠方にいる家族がスマートフォンやパソコンで、長岡市が設置する全249カ所の避難場所の位置を地図上で確認できるようになるとともに、混雑状況も確認でき、市民が自ら空いている避難場所を確認し、避難先を選択しやすくなります。これにより、避難者の過度な集中を避けることができ、避難場所における感染症のリスク低減が期待できます。

協定締結日の本日から運用を開始しますので、ぜひ、ご覧いただきたいと思います。

（司会）

続きまして、株式会社バカン・河野代表取締役からごあいさつとリアルタイム空き情報配信プラッ

トフォーム「VACAN」を説明いただきます。

**(バカン・河野代表取締役)**

弊社の「VACAN」は、英語の *v a c a n t* (ベイクント)、空いているという意味からきています。今、空いているかを1秒で分かる優しい世界をつくるという思いでスタートした会社です。センサーやAIカメラを使った画像解析を使ってリアルタイムで判断し、1秒で空き情報が分かるプラットフォームを提供しています。スマートフォンやサイネージなどに対して簡単に配信できるようになっており、現在、市役所や飲食店、ホテル、旅館、空港など、いろいろなところで空き状況を可視化して、混雑回避に活用いただいています。

自治体から、新型コロナウイルス禍における災害時の避難場所では、ソーシャルディスタンス確保のために収容人数が通常より減ってしまい、避難者を受け入れ切れないことがあるという課題を聞きました。その中で、我々のサービスをいざというときの避難場所の空き状況の発信に使えないかというお話がありサービスを提供するようになりました。

一方で地域住民は、そもそも避難場所が分からない、避難したいけど密による新型コロナウイルス感染が不安といった声があります。この情報の非対称性をなくすプラットフォームとして「VACAN」が活用できると思っています。今年の台風第10号では、九州各地の避難場所において、新型コロナウイルス対策によって収容人数が減ったことで受け入れ切れず、たらい回しになるということが起こってしまいました。これには、事前にどの避難場所が空いているかをリアルタイムで発信することができれば、スマートフォンを使える人たちは、空いている避難場所に行くことができ、結果として避難場所が混雑するリスクも減らすことができるとしています。

自治体がどのように避難場所の空き情報を更新するかというところですが、災害時に電源供給されなくなったとしても使えるよう、センサーやAIカメラではなく職員が自分のスマートフォンやパソコンで更新できる仕組みにしています。災害時に職員がIDとパスワードを使って「VACAN」サイトの管理画面にアクセスし、避難場所の空き状況を、「空きあり」「やや混雑」「混雑」「満」の4段階で表示して情報を発信することができます。平常時は、避難場所の状況を「Closed (クローズド)」と表示します。各避難場所の職員がそれぞれで更新する方法と、災害対策本部が一括で更新する方法があります。また、これを組み合わせるやり方もあります。

住民から「VACAN」サイトにアクセスすると、地図上に避難場所が表示され、直感的に避難できる場所が分かるようになっています。どの避難場所が開設しているかを素早く知りたい場合は、一覧ページから見ることも可能です。各避難場所の情報には、写真も入れてあり、より分かりやすくしています。また、避難場所の個別ページを用意しており、その備考欄を活用し、水害、地震などの災害種類別に有効な避難場所かを「○ (マル)」や「× (バツ)」などで表示しています。

このシステムはウェブ上のサービスなので、アプリのダウンロードなどが一切必要なく、QRコードやURLリンクさえあればすぐに使うことができます。多くの人が利用することで、より高い効果

を發揮しますので、広報誌やホームページ、SNSなどいろいろなところで周知することが重要だと思います。

いざというときに安心して避難できるようにするための仕組みとして自信を持って提供していますので、ぜひ多くの人から利用していただきたいと思います。

(司会)

これより協定書の署名に移ります。既に相手方の署名が済んだ協定書に署名することにより、締結が完了します。それでは署名をお願いします。

(協定書へ署名)

(司会)

ここに株式会社バカンと長岡市との間で協定が締結されました。  
続きまして、記念撮影を行います。

(写真撮影)

(司会)

それでは、質疑応答に入ります。

(記者)

各避難場所までの移動距離や所要時間について、例えばA避難場所が混雑していたためB避難場所まで移動する場合なども含めて、どれくらいを見込んでいますか。

(危機管理防災本部・危機管理防災担当課長)

避難場所は249カ所ありますが、洪水でも危険のある河川によって避難場所が異なるなど、災害の種類で避難場所の開設可否は複雑です。正確な移動距離や、徒歩や車での移動で所要時間がどのくらいといったシミュレーションは非常に難しい面があり、はっきりとした距離や時間をお答えできません。

このため市では、できる限り多くの避難場所を開設し、避難先の選択肢を持てるようにするとともに、「VACAN」の地図上で、避難できる場所を確認しやすく発信することで、市民が自ら状況に応じた避難先を選択し行動しやすくしたいと考えています。

(記者)

開設している避難場所と開設していない避難場所の表示、混雑状況の表示は地図上ではどのようになりますか。

(バカン・河野代表取締役)

開設していない避難場所は、グレー色で「Closed」と表示されます。

開設している避難場所は緑色で、「空きあり」と表示されます。混雑状況によって、「やや混雑」の場合は黄色で、「混雑」「満」の場合は赤色の表示になるほか、人のアイコンが1人のものから3人、4人のものになります。

(記者)

災害時の避難場所情報提供システムの提供例は、今年の台風第10号の際の日南市のほかにありますか。

**(バカン・河野代表取締役)**

実際の災害で使われたのは、日南市のみです。

このような防災に関する協定は、今年8月4日の多摩市を初め、豊島区や広島県などと締結しており、今回の長岡市で18番目となります。長岡市は新潟県内では初です。

**(記者)**

今回のような自治体への提供は、ビジネスではなく社会貢献として行っているのでしょうか。

**(バカン・河野代表取締役)**

新型コロナウイルス禍で自分たちができることを考え、このシステムを早く届けることだと思い、社会貢献として維持費を含めて無償で提供しています。ただし、こういう形で我々を知ってもらうことは、ビジネス的にも意味のあることだと思っていますので、多くの方に知っていただきたいです。

**(記者)**

台風第10号の際の日南市でどのように使われたか教えてください。

**(バカン・河野代表取締役)**

日南市が人口約5万人という中で、約1万件のアクセスがあり、約20%の住民から見ただけだと考えています。

また、地域の人からは、分かりやすかったという声が寄せられていて、分かりにくかったという声はなかったと聞いています。

市の職員からも、これまでは自分たちもどの避難場所に空きがあるかなど災害対策本部に問い合わせないといけなかったが、それがスマートフォンを見れば分かるようになり、とても便利になったという声がありました。

**(記者)**

このシステムは特に水害時に使う想定ですか。

**(市長)**

避難場所を開設するすべての災害で使います。豪雪でも利用する可能性はあります。

また、新型コロナウイルス禍で密を避けるという点からは、災害時だけでなく、駐車場などいろいろなところに展開していく可能性もあると思っています。

**(記者)**

市では、このシステムをどのように広報して広める考えですか。

**(危機管理防災本部・危機管理防災担当課長)**

平常時からホームページをはじめ、SNSなどあらゆる手段で紹介するとともに、次の出水期に目掛けて市政だよりでも広めていきたいと思っています。また、災害時に発信する情報にリンクを張り

スマートフォンなどからその場で利用できるようにします。

(記者)

この協定はどのくらいの期間有効ですか。

(危機管理防災本部・危機管理防災担当課長)

5年間で協定締結しています。5年経過後は、1年ごとに更新していきます。

(司会)

以上をもちまして、株式会社バカンと長岡市の災害時避難施設に係る情報提供等に関する協定締結式を終了します。ありがとうございました。